

## FFR angio の非標的血管トレースが解析時間に及ぼす影響

槌谷 慶仁<sup>1</sup>、鈴木 隆佑<sup>1</sup>、望月 力<sup>1</sup>、今井 一嘉<sup>1</sup>、廣原 慎<sup>1</sup>、岡部 浩哉<sup>2</sup>、萩谷 健一<sup>2</sup>、七里 守<sup>2</sup><sup>1</sup>榎原記念病院、<sup>2</sup>榎原記念病院

【背景】機能的虚血評価としてCAG画像から血管3Dモデルを作成しFFR値を算出するFFR angio (FFRa) は従来のFFRに比べ安全面や物品コスト、検査時間の短縮を図れるが解析方法や時間についての報告は少なく標的血管が多いほど業務負担となっていた。ユーザートレーニングにて非標的血管トレースの省略が結果に影響しない事を学習し自施設でも検討し周知の上、2025/4月よりトレースの簡略化を実施している。【目的】FFRaの解析において非標的血管トレース簡略化の実施前後の解析時間の変化を比較した。【方法】FFRaの左冠動脈解析を単独群及び多枝病変群に分け全ての血管をトレースしていた簡略化前と非標的血管の側枝トレースを省略した簡略化後の解析時間について比較検討した。【結果】単独群のLADで $20.1 \pm 7.5$ 分vs $14 \pm 5$ 分( $p < 0.05$ )。LCXで $21.4 \pm 5.7$ 分vs $14 \pm 5$ 分( $p < 0.05$ )であった。多枝病変群のLADで $22.6 \pm 6$ 分vs $14.9 \pm 5.6$ 分( $p < 0.05$ )。LCXで $15.7 \pm 5.5$ 分vs $15.8 \pm 4.7$ 分( $p = 0.95$ )だった。【考察】単独群ではLAD及びLCXで有意差をもって解析時間短縮を認めた。要因として非標的血管の側枝トレース簡略化が挙げられる。一方、多枝病変群では多くの解析をLAD先行で行っていた。そのためLADでは簡略化による時間短縮を認めたが続くLCX解析ではLAD解析後のトレースを一部用いるため簡略化の影響を受けず差を認めなかつたと考えられる。【結語】非標的血管のトレース簡略化は解析結果に影響を及ぼす事無く解析時間短縮に有用であった。